



令和6年度 国立市立小学校長会

I 活動方針等

【くにたちイレブン】

本市校長会は、小学校8校・中学校3校の合計11校で構成されている。11名の校長が密に連携し、情報共有や意見交換等しっかりとつながって運営をしている。また、校長会と本市教育委員会との連携・協力も密接で、各校の責任者としての意見や見解を共有させながら、充実した教育活動の実現に努めている。

II 主な活動・取組

1 教員研修の推進・・・【小・中学校合同授業研究会】

全教職員悉皆の研修の場として始まった「実践教育研修会」が「小・中学校合同授業研究会」と名称を変更し、児童・生徒の資質・能力の育成のために、授業研究を中心に行っている。その運営は、市教委、校長会、副校長会の三者が協力して行い、11の部会を組織している。各部会には、必ず全小・中学校からの部員が所属するという構成で、秋には全ての部会が公開授業を伴う研究発表会を開催する。

2 連合宿泊行事の運営

小学校長会は、連合で行う宿泊行事の運営を担当している。3つの連合宿泊行事（6年生対象の「日光移動教室」、5年生対象の「野外体験教室」、特別支援学級（知的）対象の「合同宿泊学習」）の取扱業者の選定や実踏の計画作成、担当者会の招集など、市教育委員会とも連携しながら実質的に推進している。

3 教育課題への対応

○「校長・PTA会長等連絡会」の実施

市立小中学校と各校PTA等との連携を一層深めていくため、各校長とPTA会長等が集まり、立川警察署や市教育委員会の参加を得て、情報交換などを行っている。

○「国立市教育リーダー研修会」の実施

市内小中学校の主幹教諭、指導教諭、主任教諭を中心とした、これからの国立市を担う教育リーダーを育成する研修会を、市教育委員会とともに共催している。今年度も教育課題の解決策を企画するという実践的な研修会を実施する予定である。

III 特色・特徴等

教育大綱に「フルインクルーシブ教育の実現」と併せて児童・生徒が持つ能力を最大限発揮できるよう「個別支援のための環境整備」が掲げられている。

現在、ソーシャル・インクルージョンの理念の下、本市のフルインクルーシブ教育の在り方をどのように考え、実践していくかを検討しながら、国立市のフルインクルーシブ教育の実現に向けて歩みを進めている。

